

◆大飯原発再稼働問題と沖縄「復帰40年」

東日本大震災と福島第1原発事故から一年がたち、この三月もいつものごとく、バタバタと時間が過ぎました。原発関連については、不戦ネットも参加する「未来につなげる・

東海ネット」で、福島原発事故から一周年ということで、三月二日から三日間にわたって、ネットの参加する一五団体がそれぞれの課題で展示会と映画上映会、シンポジウムを、三月一〇日には集会とデモを行いました。

このネットワークは、愛知・岐阜・三重の東海三県の脱原発グループが参加していますが、直近の課題は大飯原発再稼働の問題です。三月はじめ、福井から風船を千個飛ばしたところ、六〇個以上が岐阜、愛知に飛来しました。福島原発事故の事故原因も明らかになつておらず、事故の収束もな

いまま再稼働などありえないということで、署名活動や愛知県への申し入れ、関西電力中部本社への二度にわたる申し入れ等を行なっています。引き続き再稼働反対に向けての取り組みと共に、愛知県が震災がれきの受け入れを表明したことからこのことに対する取り組みも早急に準備中です。

また、沖縄の問題では、二月に普天間爆音訴訟弁護団の西川弁護士を講師に普天間爆音訴訟の集会、三月にへり基地反対協の安次富さんを招いての集会を行いました。今年には沖縄の復帰40年という節目の年なので、四月にも遅ればせながら集会を企画しています。原発事故の影響か、マスコミにいろいろ報道されているにも関わらず、沖縄の問題は、このところ関心が薄くなつていっているように感じます。米軍再編の見直しなどアメリカ国内での動きが出てい

る中でも民主党政権は、辺野古の新基地建設に向けての動きをあきらめておらず、仲井真知事でさえも「普天間基地の県外移設」の姿勢を崩していない今、本土の運動が問われていると思います。

イランをめぐる中東情勢や北朝鮮の「衛星」発射を口実に沖縄へのPAC3の配備の問題など関心を持って取り組まないといけない問題が山積みです。なかなかすべてに対応ができていませんが、五月には、中東情勢を見据えて集会など準備中です。

(山本みはぎ／不戦へのネットワーク)

定点

名古屋

観測

◆「文部省」より深刻！県による歴史改ざん

すっかり葉桜の季節になったが吹く風は妙に冷たい。真っ赤なデイゴの花が咲くまでには暫く…。

朝鮮民主主義人民共和国の「衛星」打上げ予告を「長距離弾道ミサイル発射実験」と見なす日本政府が打ち出した自衛隊の迎撃体制が明らかになった。石垣島（新石垣空港の国有地）と宮古島（空自分屯基地）、本島（知念・恩納村分屯基地）へ、岐阜基地などのPAC3を広島・呉市まで陸送、民間フェリーなどで運んで配備するというもの。まるで打ちでの小槌よろしく国防ムードをふりまき、民間を巻き込んで有事体制を創り出そうとしている。

時機を得たかのように与那国町議会が「八重山諸島へのPAC3早急配備」を求める要請決議を退席二名の「全会一致」で可決した。「町民の生命と財産、暮らしを守る観点から万が一着弾する事態に備え万全の対処が望まれる」と言うが、PAC3の迎撃が万全でないのは既に明らかなこと。前提となる自衛隊の誘致を進めることは町民の暮らしを更に危うくするものだ。外間町長は誘致の賛否を問う住民投票開催について推進・反対派を交えた三者の話し合いを持つと言うが、何より求められるのは住民たちの要求に向き合うことだ。

昨春より、八重山地区中学校で使用する公民教科書採択が統一されてないことで「有償」を譲らない文科省の何と大人げないことか！「竹富町の子どもにも真理を教える教科書採択を求める町民の会」がまとめた寄付で教科書代を賄うと言う。竹富町教委は今後も無償給付を求める。子どもたちの目に「民主主義」はどのように映ったことだろう。

那覇市首里の旧日本軍第32軍司令部壕説明板の設置検討委員会による文案から、県が「慰安婦」と「住民虐殺」部分を一方的に削除した。沖縄戦を最も特徴づける内容の削除の根拠は「確証がもてない」、「事業を年度内に」という歴史認識のなさと行政対応が露わに。検討委員共々、沖縄戦継承の可否が問われる事態を迎えている。

沖縄

(島尻まーじ)